古石ひでさと4期目に向かっての議会活動　ひでさと

古　石　後援会だより

URL：http://古石.com/

第　３５２３号
発行令和３年１月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

空知での出来事

2021年（令和3年）1月23日（土曜日）

夕張鹿鳴館 倒壊防げ

建設業協会などが屋根除雪

【夕張】国の登録有形文化財である夕張鹿鳴館（旧北炭鉄道・谷口楽郎）で、屋根の除雪が行われた。現在、市内に管理者が不在で、積雪による建物の倒壊が心配されていたが、市の要請を受け、建物を所有する中国資本の企業が2棟建設業協会に依頼し、今冬の膨大な雪を取り除いた。

建物を所有する不動産開発・コンサルティングの元木リアルエステート（東京）系の企業が、道南に住む日本人の管理人2人を含めに派遣した上で、夕張建設協会や市職員の手を借りて総勢30人態勢で21日に実施。屋根に1.5㍍ほど積もっていた雪を6時間かけて除去した。市は、「屋根に穴があく現状は、雪による建物の倒壊などの損傷は確認できなかった」と話している。市と元木などとの間で交わされた覚書では、除雪は元木の負担となっていることから、昨年11月の市議会で、市に管理施設を求める質問が出ていた。

夕張鹿鳴館は木造2階建て約160㎡で、旧北炭が1913（大正2）年に迎賓館として建築した。1981年に「炭鉄港」の構成文化財の一つにもなっている。（志村直）

屋根の雪下ろしが行われた夕張鹿鳴館

記録的大雪 負けない

空知信金職員5人出動

岩見沢 高齢者宅でボランティア

玄関前を除雪する空知信金の職員

【岩見沢】市社会福祉協議会の「除雪ボランティア」に登録している空知信用金庫の職員が22日、市社協の要請で、市内の住宅2軒でボランティアは、自力で除雪できない高齢者や障害者から依頼を受けた市社協が派遣する。この日は33～43歳の男性職員5人が、1人暮らしの70代女性宅2軒で作業。玄関前を埋める約1・5㍍ほどの積雪をスコップでどかして通路を確保したり、ストーブ排気口付近の雪を取り除いたりした。

今季は昨年12月以降の大雪でボランティアの出動が増えており、市社協は「若い職員が除雪に来てくれて大変助かる」。空知信金は毎年、同ボランティアに登録しており、今回の派遣は2年前の冬季に4件出動して以来。

同信金の担当者は「雪の多い今季は1回だけの出動では済まないだろう。要請があれば協力したい」と話していた。（勝間田翔）

雪庇落とし器具 役立てて

江別の企業 岩見沢市社協に寄贈

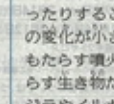
【岩見沢】建築資材製造（江別市、勝原敏信代表）は21日、同社が製造する屋根の雪庇落とし器具「スノーホール」5点（13万5千円相当）を岩見沢市社会福祉協議会に寄贈した。

スノーホールを手にする出口智事務局長（左）と勝原敏信代表

長さ最大約6・5㍍、重さ約3㌔。長さを調節できるアルミ製の棒の先端に、円盤形のステンレスヘッドが付いている。ヘッドの下部は斜めに切られ、雪庇の上にヘッドを落とすと、雪が落下する仕組み。実用新案登録し、2016年ごろに販売を始めた。

同社がスノーホールを公的機関に寄贈するのは初めて。勝原代表は「記録的な大雪に見舞われている岩見沢の役に立てれば」と述べ、市社協の出口智事務局長は「使いやすそう。高齢者宅などのボランティアによる除雪作業で使いたい」と話していた。（渡辺拓也）

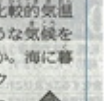
ぶんちゃんと179の空



室蘭市 Muroran City

噴火湾でクジラ観察

「鉄のまち」として知られる室蘭市は、海を泳ぐクジラを船から眺めるホエールウオッチングでも有名です。三方を海に囲まれているため、極端に暑くなったり寒くなったりすることがなく、道内でも比較的気温の変化が小さいマチです。このような気候をもたらす噴火湾は広大で波も穏やか。海に暮らす生き物たちの餌も豊富です。クジラやイルカなどの海洋生物にとって生息しやすい環境なのです。（鎌）



スキー授業中止、大会は他会場に

夕張マウントレースイ閉鎖

【夕張】市内のマウントレースイスキー場が今季閉鎖となったことで、市内小中高校の同スキー場でのスキー授業が中止となったほか、予定していた大会が他会場に変更となるなどの影響が出ている。一方、今年は例年以上の積雪で、同スキー場には連日、無断で侵入してスキーをする人たちの姿が見られる。専門家は「危険も伴う」として、やめるよう呼び掛けている。

市は「スキーができるようになることは、古里の夕張を誇りに思えることにつながる」として、2016年度から毎年、小中高校のスキー授業を後押し。予算約150万円を計上してリフトやスキー板のレンタル、移動の貸し切りバスの代金を負担してきた。しかし同スキー場が使えなくなったことで、夕張中は三笠市内のスキー場に変更。ゆうばり小と夕張高はスキー授業を取りやめた。市教委は「残念としか言いようがない」と落胆する。

同スキー場は雪質の良さや、初心者から上級者まで楽しめるコースがあることから、近年は各種大会の会場になってきた。今季も23、24の両日にアルペン種目で中学生の全道規模の大会が開かれ、選手や大会関係者ら約600人が夕張を訪れる予定だったが、小樽市内のスキー場に変更となった。

北海道スキー連盟の尾形修理事は「マウントレースイはコースといい、大きなホテルや温泉が併設されていることといい、大会を開く会場として申し分なかった。スキー人口が減少する中、こういう立派なスキー場がなくなるのは、北海道のスキー業界にとっても痛手だ」と話す。

リフトが動かず、スタッフもいないスキー場には現在、徒歩で山の上まで登って滑り降りる人たちが毎日訪れている。私有地への無断侵入となるが、安全面での心配も懸念される。

スキーのジュニア選手育成組織「夕張TSO」の久慈修代表は「管理されていないスキー場はコース内とコース外の区別がつかず、コース外に逸脱して沢に落ちる危険がある。監視員もいないため、誰も助けに行くことができず、危険きわまりない」と話している。（志村直）

無断侵入者絶えず、安全面で懸念

閉鎖されたマウントレースイスキー場。無断侵入者によるシュプールがゲレンデに残る

月形町職員、高齢者宅など除雪

9世帯 玄関や暖房排気周辺

【月形】町は今月から、高齢者や障害者のみの世帯を対象に、玄関やストーブ排気口周辺の除雪を行っている。

今月上旬に、75歳以上の1人暮らし世帯、80歳以上の夫婦世帯、障害者単独世帯の計1223世帯を対象に、雪による影響を調査。そのうち9世帯の支援が必要と判断し、今月上旬に職員12人が3班に分かれ、それぞれの世帯で除雪に当たった。除雪業者の順番待ちをしていた人や、住宅の1階部分がほぼ積雪で埋まっている例などがあったという。

町内に積雪を観測できる気象庁設置の機器はなく、町は独自で降雪量と積雪を観測。今月6日には同時期としては最近10年間で最も多い積雪179㌢を記録した。一方、町の人口に占める65歳以上の割合は4割超になり、高齢により自宅の除雪ができない懸念があるという。町は「例年、2月にかけて雪が多くなる。安心安全に暮らすため支援できれば」と話した。（勝間田翔）

ストーブ排気口付近の除雪を行う職員たち

津軽三味線 魅力伝えたい

岩見沢の美容師・上村さん

自宅で教室「気軽に学んで」

【岩見沢】市内在住の美容師・村真子さん（37）が1月から、津軽三味線の教室を自宅で始めた。若手が指導する教室は全道的にも珍しいといい、上村さんは「気軽な雰囲気とともに、津軽三味線の魅力を楽しく伝えたい」と話している。（渡辺拓也）

岩見沢出身の上村さんは幼い頃から民謡に親しみ、中学時代には市内の教室で三味線の演奏を始めた。演奏する機会が多く、経営する美容院に勤め、長に始めたのは、岩見沢商業2年のとき、三笠市出身の津軽三味線奏者・新田光恵さん（69）の生演奏を聴いたことがきっかけ。「力強く迫力ある演奏に魅了された」。

すぐに札幌市内に教室を構える新田さんのもとに通い、大学、専門学校時代も弟子入りし、腕を磨いた。憧れだった全国大会にも出場している。

2015年に札幌市で開かれた「第50回津軽三味線全国大会」で、新田さんの門下生らと合同演奏で優勝を果たすなど、数々の舞台を経験。新田さんからは「プロとしてやっていけるレベル」と太鼓判を押す。

細な表現力が彼女の持ち味」と太鼓判を押す。

長年にわたり演奏活動や指導を続ける新田さんも、「受講料は1回で、大人2千円、小中高生2500円が必要。三味線の貸し出しにも応じる。

ようで、気軽に津軽三味線を学べる教室にして、仲間を増やしたい」と意気込む。申し込み・問い合わせは電子メールpoltros@gmail.comで。

「子どもから大人まで一緒に楽しく教えたい」と弟子入り希望の上村さん

雪下ろし中の事故相次ぐ

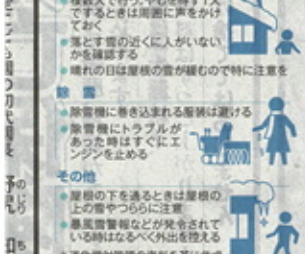
気温上昇 落雪に注意

屋根から雪が落ちた月形町農協の札比内選果場に隣接する倉庫

【岩見沢、月形】記録的な大雪が続く岩見沢市と月形町で20日、屋根の雪下ろし作業中の事故が相次いだ。岩見沢では高さ約6㍍の屋根から転落した建設業男性（37）が死亡し、警察による死者数は昨年11月以降、空知管内で6人となった。管内は1日からの日にかけて最高気温がプラスに転じる見込みで、岩見沢署などは落雪事故に注意するよう呼び掛けている。

同署によると、死亡した男性は雪下ろしの依頼を受け、一人で作業していた。ヘルメットは付けておらず、頭から足を滑り落ちてあおむけで倒れていた。

殺傷能の屋根の雪下ろしを行っていた。ヘルメットは付けておらず、頭から足を滑り落ちてあおむけで倒れていた。



雪の事故を防ぐための注意

屋根の雪下ろし
- 複数人で行う、やむを得ず1人でするときは周囲に声をかける
- 落とす雪の近くに人がいないか確認する
- 晴れの日は屋根の雪が緩むので特に注意を

除雪
- 除雪機に巻き込まれる服装は避ける
- 除雪機にトラブルがあった時はすぐにエンジンを止める

その他
- 屋根の下を通るときは屋根の上の雪やつららに注意
- 暴風雪警報などが発令されている時はなるべく外出を控える

※道危機対策課の資料を基に作成

た。市内の病院に搬送されたが、まもなく死亡した。

男性の近くには屋根から落ちたとみられる氷の塊があり、同署は滑落が死因とみて調べている。

一方、月形町では、月形町農協が所有する町内札比内の倉庫で、高さ約5㍍の屋根の雪下ろし中に転落したとみて調べている。

町農協によると、男性は1人で作業中だった。同署は、屋根の雪下ろし中の事故が今冬に入って相次いでいることから、注意喚起を呼び掛けている。

札幌管区気象台によると、21日は本州から強い出した高気圧の影響で南から暖かい空気が入り込み、岩見沢市では最高気温が3月中旬並みの3度となる見込み。同署は「なだれや落雪に注意をつけてほしい」と話す。（古川実和、勝間田翔）

卸電力価格 急騰

道内5円→200円超 新電力「大赤字」

JEPX「本州需要増」■識者「予測に甘さ」

寒波の影響で全国で電力需給が逼迫したことを機に、道内の卸電力価格が異例の高騰を続けている。昨年12月に1㌔時当たり5円前後だった価格は、今月中旬、一時的に250円超まで跳ね上がり、今も家庭向け料金水準の約9倍の最高200円での取引が続く。経済産業省は、需給逼迫回避のため原発の必要性などを主張するが、識者は「国や大手電力の需給予測が甘かっただけで、発電設備の問題ではない」と指摘する。

日本卸電力取引所（JEPX）によると、卸価格が200円を超えるのは、2005年の取引開始以来初めて。道内は灯油を使う世帯が多く、北海道電力も冬季の需要増に備えて供給力を確保しているため、本州ほど需給は逼迫しなかったが、JEPXは「本州の需要増に引っ張られる形で道内価格も高騰している」と説明。沈静化の見通しは立っていないという。

経産省によると、昨年12月中旬から今月中旬までの全国の電力需要は前年同期比8～10％増。発電燃料の液化天然ガス（LNG）の在庫不足や、悪天候による太陽光発電の出力低下などが逼迫の要因としている。梶山弘志経産相は15日の記者会見で「安定供給の実現には徹底の活用や、（新電力にも負担を割り当て火力発電や原発の設備を温存する）容量市場制度も対応策の一つだ」と強調した。

これに対し、電力市場から調達して消費者に売る道内の大手新電力は「仕入れ値が異常に大赤字だ。需要が1割増えた程度でここまで逼迫するとは、先進国の電力システムとは思えない」と国の対応を批判。中小の新電力は「こんな不安定な市場では安心して事業を続けられない」とぼやく。

専門家からも疑問視する声が上がる。自然エネルギー財団の石田雅也シニアマネージャーは「（仮に）原発が稼働していても、需給予測を誤れば同じ結果になる。太陽光発電の責任にするのも筋違い」と指摘。

電力システムに詳しい京大大学院の安田陽特任教授は「容量市場によって、十分な発電設備を確保しても、今回のように燃料が不足すれば、需給逼迫に対応できるかどうかは分からない」と話している。（佐々木馨汰）